

氏名 _____

学籍番号 _____

次の10の文章の正誤を示し、正しければ番号に○を、誤っている場合には、その誤った個所に二重の取消線を引きなさい（10分間ミニテストなので理由まで書かなくても良いが理由を十分考えること）。

- 01 120万円を貸すときに、利息を30万円と定めて、この分を事前に差し引き、借主に90万円を渡したとき、120万円の上限利息年15%・18万円を超える分は元本に充当され、借主は1年後に102万円を返還すればよい。
- 02 特約がなければ、利息には利息は付かない。
- 03 判例・通説によれば、制限種類物ではない種類売買の場合の債務が取立債務である場合において、買主が取立てに来ないとき、売主は、買主が取りに来ればいつでも給付できる旨を告げて受取を催告すれば、履行遅滞の責任を免れ、手元にある物すべてが売主の帰責事由なく滅失すれば、買主は何も受け取れなくても代金を支払わなければならない。
- 04 一定金額を支払う金銭債務の債務者は、特別の法の規律や特約がなければ、約束した金額を支払うことで免責されるが、事情変更の原則が適用される場合は増額評価がされるという最高裁判例がある。
- 05 制限種類債務の債務者は、その制限種類物から給付すれば足り、それを善管注意義務をもって保管していたのであれば、品質が悪くなったものを給付しても債務不履行にはならない。
- 06 特定物の売主に善管注意義務の違反があり、目的物が損傷・滅失すれば、債務不履行責任が生じる。善管注意義務違反なく目的物が損傷・滅失した場合には、判例や伝統的な見解によれば、売主は損傷・滅失した状態で引き渡せば債務不履行責任を負わず、追完や修繕義務も負わない。
- 07 判例によれば、利息制限法の上限利率を超えたことを知らずに支払った借主は、過払分の返還を直ちに請求できる。
- 08 一定金額を支払う金銭債務には履行不能がなく、債務者は履行遅滞について免責を主張できない。
- 09 現金価格10万円の商品を10回の均等分割払いで買い物をし、各月の支払額が11000円であれば、1000円分は利息制限法の適用される利息である。
- 10 代替的な特定物は存在しない。